



学校だより



「折り合い」をつける

今年もアジサイの花や葉が、鮮やかに咲き誇る季節となりました。梅雨は、じめじめして鬱陶しく感じますが、アジサイをはじめ本校の池のカエルたちも、雨が降り始めると、より生き活きとした姿を見せ始めます。時に鬱陶しく思える梅雨も、豊かな自然がもたらす恩恵であり、人間にとっても恵みの雨であることは間違いありません。雨が続く毎日も、アイデアを工夫して、楽しく過ごしていきたいものです。



さて、6月はさいたま市の「いじめ撲滅強化月間」です。コロナ禍が長引く中、大人も子どもも気持ちが疲弊し、他者へのかかわり方が攻撃的になったり、批判が多くなったりしてはいないでしょうか。特に、匿名性の高いSNS等においては、その傾向が強いような気がします。過日5年生を対象に行われた「スマホ・タブレット教室」の講師の方も、「匿名」による電話や投稿は、より攻撃的になる傾向が強いという話をされていました。「匿名」は、相手との交流はなく、発信する側の価値観による一方的な発進です。ですから発信する側の思いが、次第にエスカレートしてしまい、それが、相手を傷付けてしまったりいじめにつながったりすることもあるのです。しかし、社会の一員として生きていく限り、それでは、よりよい人間関係を構築することはできません。人は、様々な価値観をもっています。ですから、意見が合わないことがあるのも当然で、人間関係を構築するためには、その時その時でどうやって「折り合い」をつけていくかが問題となります。もちろん、自分の考えを主張していくことはとても大切なことです。

令和4年 5月31日発行
さいたま市立本太小学校
Tel 048-882-3007
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>
e-mail motobuto-e@saitama-city.ed.jp

校長 藤澤 美智子

でも、どこかで「相手の考えの方が優れてはいないか」「自分の言動に非はないか」等を客観的に考え、分析する心をもたなければ、「折り合い」のつけようもなく、攻撃やいじめに発展してしまうのではないのでしょうか。他者とよりよく共生し認め合っていくためにも、そして、自分自身が心地よく生きていくためにも「折り合い」の付け方を学ぶ事はとても大切な活動になってきます。

子どもたちは、学校をはじめ様々な場における人々とののかかわりの中で、生きていく上で大切なことを学んでいきます。その中でも最も大切なのが友達であり、「折り合い」を学ぶ上でも欠かせない存在です。友達は、親や教師と違い、ずっと同じ時代を生き、似たような体験や共通の興味・関心をもつ存在です。その友達と互いの考え方を交流し、影響し合うことで、互いを認め、尊敬しあう心がはぐくまれていくのです。本校では、同じ目標に向かって協力し合う経験の場や異なる考えの意見を交換しながら合意形成（折り合い）を図る機会をつくり、「協力して達成する喜び」を味わわせていきたいと考えております。それにより「友達を理解しようとする態度」「友達のよさを見付ける目」をはぐくみ、いじめ防止につなげてまいります。



中には、「いじめはなくなる」という人もいます。しかし、どんなに困難でも、いじめや争いのない社会、互いに尊敬の念をもって生きていく社会の形成をあきらめるわけにはいきません。子どもたちの幸せのために、小さな変化にもしっかり目を向け心をこめて対応していきたいと思えます